横浜YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.479 2018

YMCANews 3

2018年3月1日発行
（毎月1日・1回発行）
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行／公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

会員が創る平和につながる希望の光
第4回 横浜YMCA会員大会

横浜YMCAでは、2月12日に「第4回横浜YMCA会員大会」を湘南とつかYMCAにて開催した。会員大会は、新しい維持会員（Yサポーター）を歓迎し、会員相互の親睦と交流、学びの機会として維持会員やプログラム会員とその家族、ユース、ボランティア、子どもたち、スタッフなど340人が参加した。

オープニングセレモニーは、ドラムサークルファシリテーター協会理事の飯田和子さんを中心に参加者全員で輪になって座り、一人一つずつ太鼓やパーカッションをファシリテーターの動きに合わせて音の強さや弱さ、速さを調整し演奏した。会場全体が一つになり、全員で奏でた音の豊かさに笑顔が満ちた。大会を主催した会員事業委員会の鈴木茂委員長からは「会員同士の新しい出会いと、つながり、そして皆で平和を共に考えていきましょう」とあいさつがあった。

平和のメッセージでは、「広島ピースキャンプ」に参加した子どもたちの報告と自分たちが考える平和、身近にできる平和の取り組みなどが発表されたほか、天野耕太さん（曲芸師・芸術家）が「自分の中の心の平穏と相手への思いやりが平和につながる。日々の過ごし方やふるまいを大切にしてほしい」と語った。最後に、横浜YMCAの維持会員、理事や指導者として80年以上奉仕いただいている阿部志郎さん（神奈川県立保健福祉大学名誉教授）からはYMCAの使命にある公正で平和な社会を創るためのメッセージがあった（詳細は下欄）。

午後には、天野耕太さんが「平和とつながるバランスパフォーマンス」を披露した。会場の子どもたちなどの参加者を舞台に招き、バランスパフォーマスの体験を行うなど会場を盛り上げた。最初は不安そうな子どもたちも、天野さんのサポートによりボードでバランスがとれ、大きな拍手に笑顔を見せた。

各教室では、子どもたちが平和や世界を身近に感じられるプログラムが行われた。「ラオス語絵本づくり」「広島ピースキャンプ写真展示」「ぼくの、わたしの理想の大人」「こんなときどうする？ソーシャルスキルトレーニング」「世界の安全クイズ」「留学生よる自国紹介」高齢者の理解を深める「紙芝居&クイズ」「平和の絵本」など世界に目を向け、子どもたちにも分かりやすく多文化共生や平和を考える取り組みが行われた。最後に、横浜YMCA田口努総主事は「会員のみなさまとともにポジティブネットのある豊かなる社会をつくっていきたい」と語った。

▲新しい維持会員を含め多くの出会いがみつかり、互いにつながり、平和について学び考えた会員大会

▲天野さんによるバランスパフォーマンス

ドラムサークルにチャレンジ
全員で奏でた音の豊かさに笑顔

今年の会員大会では、新しい取り組みとして「ドラムサークル」によるオープニングを行いました。ドラムサークルは、みんなで輪になって即興的につくりあげる太鼓やパーカッションのアンサンブルで、参加者が一体感を感じながら楽しい時間を共有できるものです。子どもから高齢者まで参加ができ、人びとの心の扉を開き、協調性を促進する効果が期待できるもので、参加者は「新しい体験ができた。みんなの心が一つになるのを感じました」と感想を述べました。

多世代からの平和のメッセージ
考え、悩み、迷いながら平和を創る

広島ピースキャンプに参加した子どもたちや曲芸師の天野耕太さん、80年以上にわたるYMCAの会員で指導者である阿部志郎さんからそれぞれの体験を基に平和を創るためのメッセージが語られました。その中で、阿部さんは、「広島の報告を行った子どもたちの平和への思いとその感性に感動しました。社会が激しい音を立てて変わる中、私たちは悩み、考えながら、平和を求めて静かに一足、一足と歩んでいきましょう」と語りました。

ホドス

3月、4月は卒業、入学などの季節です。若い人たちが新しい世界へ向かって飛躍しようとする姿はまぶしいばかりです。少し前、2年前に隠退した教会の子どもたちに久しぶりに会いました。すっかり成長した数人が3月には中学校を卒業します。赤ん坊の時から一緒だったこの孫のような若い人たちの将来が実に楽しみです▼私は中学生の3年間を北海道の下川町で過ごしました。スキーで活躍する葛西選手で少しはこの町を知る人もいますが、私の住んだ集落の中学校は人口減少のため閉校し、別の学校に統合されました。歳をとった私たち卒業生は、クラス会を頻繁に開いてきました。しかし寄る年波に勝てず5年前を最後に開催されなくなりました▼最近はその同級生からの年賀状も極端に減ってしまいました。同級生の一人が一昨年「今年で年賀状は終りにする」とあったのに、今年も送ってくれました。しかし病のために「字がかけないのよ」と、震える手で書いたたった一行の年賀状にショックを受けました。実はこの人は習字がクラスで一番上手な生徒でした。輝いていたのです。若い人の飛躍に対して年老いた者の退縮を実感します▼旧約聖書の老いた賢人コヘレトは、人の一生を「何と空しいことか」と言いますが。この言葉は本来、水滴が直ぐに乾く速さに似た人生の短さを言うのだそうです。若い日も年老いた日も短いから今を一生懸命生きようが行間に隠された勧めです。（準）

YMCA NETWORK NEWS

横浜 フットサルで未病対策取組

未病の改善には、子どもの頃からの正しい生活習慣を確立することが重要であることから、神奈川県では、子どもの未病対策に取り組んでいる。

2月11日には、子どもたちが楽しく運動や食などについての未病改善に取り組めるよう、企業や団体、大学や専門学校などの教育機関のノウハウや人材を活かしたプログラムを幼稚園や保育園などで提供できるしくみを構築しようと、「子どもの未病対策応援プログラム」のキックオフイベントが東戸塚において行なわれた。

全体で12のプログラムが登録された中、横浜YMCAではキッズコーディネーションを取り入れた「エンジョイ!フットサル」を行った。16組の親子が参加し、足の裏やつま先などを使ったサッカーとは異なった動きやボールの扱いや動きを学び、ミニゲームなどで楽しく運動を行った。

自然と共存する心育む 三浦で新たなチャレンジ

4月から三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ

2006年に神奈川県から指定管理者として管理・運営を委託されている神奈川県三浦ふれあいの村（三浦市初声町和田）は、今年4月から民間事業者に運営が移行されることになり、公募により横浜YMCAが貸付事業者として選定された。2038年までの20年間、土地と建物が無償で貸し付けられることに伴い、新施設名を「三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ」として活動を開始する。県からの指定管理料がなくなり、全て利用者からお預かりする利用料で運営される。

1972年に建設されて以降、キャンプやマリンアクティビティを体験できる野外施設として、県内外の学校・青少年団体から利用されている。財政難を理由に公共施設の見直しを進めていた県は、昨年末に運営事業者を民間とする条例案を提出し、県議会にて議決された。

横浜YMCAでは、富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ（静岡県富士宮市）に続く、2つ目の野外教育施設となり、両施設の総合的な取り組みを展開していく。12年間で積み上げてきた青少年育成を中心に、あらゆる世代を対象とした自然体験活動の支援をさらに進めていく。強調点としては、①三浦という自然環境を生かした体験活動を通して自然との共存を考える心を育てること。グループワークを中心としたプログラムを小・中学生に提供しお互いを尊重する心を育むこと。②地域の団体や法人、行政と協働し、三浦半島の素晴らしさを県内外の多くの人びとに伝え、三浦半島の活性化のキーステーションになっていくこと。また、これまで児童や生徒が利用の中心であったが、高齢者や海外からの利用者にも利用していただくこと。③防災活動の働きをさらに強化すること。④地域の農家などとのつながりの中で、三浦半島の食材提供や食育教育の場としての働きを強めていくことなどが挙げられている。移行に伴い、テント泊の利用を本格的に開始する。

▲三浦の豊かな自然を生かしたプログラム提供を行いより多くの利用を呼びかけていく「三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ」

青少年団体は一泊1張り一律4千円でキャンプを楽しむことができる。（詳細はTEL046-888-2100）。

豊かな自然に囲まれた中で環境保全の啓発に力を入れ青少年教育、コミュニティづくりをさらに展開していく。

作業療法科の合同セミナー やまゆり園元職員を招いて

福祉や医療、スポーツ、保育の専門職を養成している県内YMCA4校の専門学校では、それぞれの領域に合わせて専門家を招いてセミナーや講演会などを開催している。

1月9日には、横浜YMCA学院専門学校作業療法科の合同セミナーにおいて「忘れない。風化させない～7・26やまゆり園事件～」をテーマに、元津久井やまゆり園のスタッフであった太田顕さんを招いてセミナーが行われた。

太田さんより最初に東京オリンピックのあった1964年に開園した津久井やまゆり園の沿革や利用者の今の様子が語られた。元長洲神奈川県知事の「福祉を疎外する三つの壁」を用いながら、行政・制度、建物・環境、心の壁などの説明があった。最後に、「福祉観や価値観の変容のある中で、障がいのある人への理解と地域との共生ができる関係づくりが生まれるような働きかけが今後はますます大切になっていく」と語った。

作業療法士を目指している学生からは「地域での交流の場や理解を深める活動も大切だと感じた」と感想があった。

▲やまゆり園元職員の太田氏を招いて共生について考えた作業療法科の合同セミナー

134 YEARS OF HISTORY

横浜YMCA賛助会 地域の企業や団体が社会貢献活動を展開

横浜YMCAの目的や願いに賛同し、その活動を援助、支援する法人によって構成されている会員組織としての「横浜YMCA賛助会」は、現在約50社に登録をいただいています。

1963年1月に、横浜YMCAでは青少年センターの建設計画が打ち出され、会長に野村洋三ホテル、ニューグランド社長、副会長に伊原隆横浜銀行頭取が就任、内山岩太郎神奈川県知事、飛鳥田一雄横浜市長、李家孝横浜商工会議所会頭が顧問に就任して「建設後援会」が発足し(当時)、1964年に集会室、体育場、ホテルを中心とした青少年センターが完成しました。この建設後援会を横浜YMCAの「賛助会」としてYMCAを支援しようという気運が高まりました。

現在は、障がいのある子どもたちを支援するチャリティーランや地域の児童養護施設で生活をする子どもたちと企業の社員がふれあいの機会を持つ活動などを展開しています。

▲ふれあいイベント「工場見学」で子どもたちと共に過ごした賛助会のボランティアのみなさん（2017年）

今月の「平和の川柳」

平凡の
そっと隣に
いる平和

渡辺勇三さん　（一般）

♫子育てランド♪ 遊べる環境づくり

お子さんと十分に遊んでいますか？

休日にイベントや遊園地など、親子で楽しめる場所へ出かけて過ごすことも「遊んでいる」と、大人は思いがちですが、子どもたちにとっての「遊び」とは何でしょう？

「遊び」は本来、自発的に行われるものでなければなりません。好奇心から探求心が生まれ、遊びながら子どもなりに自主性や思いやりなどを学んでいきます。

乳幼児期の子どもたちにとっての遊びは「学び」です。始まったばかりの人生、たくましく生きぬくためにも「遊びから学ぶ」という過程をしっかり大人が理解していたいものです。

また、「遊び」を通して人間関係も学びます。近年、コミュニケーションが苦手な大人が増えているといわれています。人生を自分なりに楽しめる大人になるために、自発的に遊べる環境が十分に満たせるように工夫したいものですね。

まだまだ外は寒いですが、散歩中あちこちで春の訪れを見つけられます。子どもの興味や、目線に合わせてじっくりつき合って楽しんでみましょう。

(YMCA東かながわ保育園
主任保育士　岩間陽子)

厚木 介護福祉科の学生短歌入選

YMCA健康福祉専門学校（厚木市）介護福祉科では、学習の一環として対人援助職で大切なユーモアを意識しようと在校生全員が昨秋に「NHK介護百人一首」の応募を行った。全国で介護に関わる人からの短歌1万2234首の中から磯崎雄一さんの短歌『**ちょっとした 段差が道に横たわる まるで富士山登るがごとく**』が入賞した。磯崎さんは、「介護を受けている人は、ちょっとした段差も障がいになる」と説明した。

入選した100首は、全国のNHK各放送局等にて展示されるほか2月22日にEテレで紹介された。

東日本大震災から7年
3.11をわすれない…つながる
今年も各地でイベントや街頭募金を行う

横浜YMCAでは東日本大震災復興支援活動を継続して取り組んでいる。地震の発生から7年を迎える今月には「3・11をわすれない…つながる」をテーマに、3月11日の前後でさまざまな取り組みが県内各地のYMCAで開催され今後の支援を考える。

▲昨年の「3.11をわすれない…つながる」のつどいで震災支援について考えた

3月4日（日）午後3時半から湘南とつかYMCAにおいて「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート Heart to Heart 想いを乗せて」（戸塚区後援／戸塚東口商店会ほか協力）が開催される。第1部はクラシック、第2部はポップスが披露される。チケットは前売り1200円（要予約）。

3月9日（金）午後6時半から8時半に、横浜中央YMCAにおいて講演会「被災地で出会った人びとの今」を開催する。東日本大震災の直後から『つなみ被災地の子ども80人の作文集』（文藝春秋）に関する取材を行っている森健氏（ジャーナリスト）から、現地で暮らす人びとの今を学び、今後の支援を考えていく機会とする。

10日（土）午後1時から3時半には、踊場地区センター（横浜YMCA指定管理）において「楽しいコンサート～歌・ソプラノ編～&仙台すずめ踊り」が開催される。仙台まつり宝山による「すずめ踊り」の演舞が披露されるほか、岩手県宮古市のかけあし会による物産展も行われる。コンサート参加費は1千円。

11日（日）午前10時から午後2時に横浜市舞岡地区センター（横浜YMCA指定管理）にて「舞岡さんま祭り」が開催される。さんま焼き、せんべい汁、東北物産展、チャリティーフリーマーケット、災害対応ワークショップ、追悼キャンドルナイトなどが行われる。同日午前10時から午後2時に大和YMCAにて「東日本大震災復興支援&国際・地域協力募金バザー」を行う。

このほか、鎌倉YMCAでは「揚がれ希望の凧&復興支援街頭募金」、YMCAつるみ保育園や鶴見中央YMCAなど合同で街頭募金を行う。

研修棟完成し 3月10日献堂式

横浜YMCAの野外教育施設である富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ（静岡県富士宮市）は、昨年5月に開設10周年を迎えた。富士山YMCA10周年事業準備委員会（茂木雄委員長）では、これまでの利用者アンケートの声を基に、より多くの方に利用しやすい施設としてのたずまいを整える6つのプロジェクトを進めている。

このうち、メインホール以外にミーティングや話し合いを行える場所がほしいという声に応え、研修棟の建設を進め、今年1月25日に研修棟が完成した。

富士山YMCA10周年事業準備委員会では、3月10日（土）午前11時から午後1時に献堂式を開催する。

準備委員会では、プロジェクトを進めるにあたり、2千万円を目標として募金を呼びかけている。会員や企業、理事・常議員、スタッフなどから寄せられた募金は745万円（1月31日現在）となった。委員会では、今後も募金の協力を呼びかけていく。

2017賛助会入会会社

厚木ティービルサービス（有）、（株）安藤スポーツ、アンドウ電気照明（株）、（株）伊藤園、上野トランステック（株）、小倉会計事務所、（株）神奈川新聞社、川本工業（株）、（株）共栄社、（株）崎陽軒、扶桑電機（株）、協同電気（株）、（株）グリーンハウス、（株）、サカクラ、（株）サス・スポーツプロダクト、（株）ジャパンビバレッジセントラル、湘南ひかりのくに（株）、大成建設（株）横浜支店、（株）ダイイチ、ダイドードリンコ（株）、タカナシ乳業（株）、タカノ（株）、（株）テレビ神奈川、（福）東京コロニー東京都大田福祉工場、戸田建設（株）横浜支店、ナショナル・ベンディング（株）、（株）日栄ビルサービス、日興テクノス（株）、（株）日新、日立キャピタル（株）首都圏支店神奈川営業所、（株）フェアスタート、藤木企業（株）、富士ゼロックス神奈川（株）、富士倉庫（株）、（株）ホテル、ニューグランド、（株）横浜ポンパドウル、丸全昭和運輸（株）、三丸興業（株）、（株）大和生花店、（株）有隣堂、（株）ヨコソー、（株）ヨコソー横須賀本社、横浜エレベータ（株）、（株）横浜銀行、横浜商工会議所、（株）横浜スタジアム、株式会社YSGホールディングス、（特非）よこはま地域福祉研究センター、（有）横浜雪屋、ヨシダ電子（株）、理想科学工業（株）横浜支店、（有）ワイコーポレーション（順不同・敬称略　1月31日まで）

こもれび
遠い先の良いこと

総主事　田口　努

震災からの日々を
どうしていますか
そんな大変な日々の中で、
6年を超えた今でも
私たちに会いに来てくれる
人たちがいます。
どうしたらよいか
迷っている時に
何気なく話す、
その言葉に助けられて
そのあたたかい
まなざしに、助けられて
また、一歩前に進んできた
感じがします。その時には、
気がつかなかった出来事にも
何かしらの意味があり
全てが遠い先の良いことに
つながっているのではと
目の前の出来事にも
今を生きている自分にも
そしてあなたに
ありがとうを

伝えたい。（南相馬小高　廣畑裕子）

7年前の東日本大震災で帰宅困難区域となった福島県南相馬小高（おだか）を1月に訪ねた。小高は2016年7月に帰宅困難区域が解除され帰還できるようになり、1万2千人だった街に2千人が戻っている。地震そして津波で多くの命を失い、さらに原発事故により6年間も人が住めなかった。全国に避難している人の中には、別の地域での生活も始まり小高に戻れない人も多い。

閑散とした街に、人の温かさを感じる小高プラットホームがあった。その施設長である廣畑裕子さんから家族と再会できた喜びや友人・知人との死別から「生かされている」という想いで行先の見えない困難な避難生活の日々を聞いた。その語りのスライドのエンドロールが冒頭の言葉だ。辛い避難生活も、今も、遠い良いことにつながっていると私たちが励まされた。

横浜YMCAでは「わすれない…つながる」活動を今年も行う。自分事として感じる時をもってほしい。そして自分ができることを続けていこう。

FLASH NEWS

よこはま国際フォーラムが2月3日、4日にJICA横浜で行われた。横浜YMCAでは、国際ボランティア入門「笑顔につながる小さな一歩」をテーマに国際ボランティア in タイや学習支援、英語絵本の読み聞かせに関わるユースがボランティアの魅力を語ったほか、AIDS市民活動センター(横浜YMCA運営受託)は、世界のAIDSの最新情報を伝えた。「外国につながる若者たちのチャレンジ」(横浜市国際交流協会主催)では、YMCAいずみ保育園の松井リリアンスタッフが若者たちの課題にメッセージを語り多文化共生を考えた。

4月1日に、今年も朝鮮学校に通う子どもたちの入学を祝い、安心して登校してもらおうと県内のNPOなどが「入学おめでとう応援隊」を編成する。神奈川県内と町田にある4つの朝鮮初級学校(小学校)の入学式に合わせボランティアを募集している。申込みは3月27日(火)までにhttp://kokucheese.com/event/index/507232/へ。

ワイズコーナー　活動の魅力を次の世代へ
ワイズ・ユースクラブ横浜ーY3

私たちY3は、これまで富士山YMCAに寄り添った活動を行っています。草刈りやキャンプ前の設営準備、また感謝祭では受け入れ側としての運営等の活動を行ってきました。

所属メンバーのうち、数名は富士山YMCAがオープンする前から富士山YMCAに出向き、その魅力を感じてきました。

その富士山YMCAも昨年、10周年を迎え、次のステップに進もうとしています。私たちY3も次の世代につなげるべく、この先も富士山YMCAに寄り添い活動を続けていきたいと思っています。

（Y3　有波　幸太）

横浜中央ＹＭＣＡ	☎045(662)3721
横　浜　北ＹＭＣＡ	☎045(433)4321
藤　沢ＹＭＣＡ	☎0466(26)1151
横　須　賀ＹＭＣＡ	☎046(834)5811
川　崎ＹＭＣＡ	☎044(932)2031
厚　木ＹＭＣＡ	☎046(244)4181
ＹＭＣＡ　ＡＣＴ	☎045(316)1881
鎌　倉ＹＭＣＡ	☎0467(24)7859
ＹＭＣＡ山手台センター	☎045(813)1022
湘南とつかＹＭＣＡ	☎045(864)4768
金沢八景ＹＭＣＡ	☎045(782)3003
ＹＭＣＡ東とつかセンター	☎045(392)3747
大和ライフサポートセンター	☎046(264)3192
ワークサポートセンター	☎045(867)0090
ＹＭＣＡあつぎ保育園ホサナ	☎046(222)8619
ＹＭＣＡ山手台保育園アルク	☎045(813)1022

I・N・F・O・R・M・A・T・I・O・N

YMCAの最新情報は
ホームページをご覧ください
http://www.yokohamaymca.org

ＹＭＣＡとつか保育園	☎045(870)3663
ＹＭＣＡマナ保育園	☎045(790)3588
ＹＭＣＡとつか乳児保育園	☎045(870)3235
ＹＭＣＡつるみ保育園	☎045(500)5030
ＹＭＣＡかわさき保育園	☎044(520)1825
ＹＭＣＡいずみ保育園	☎045(800)3010
ＹＭＣＡ東とつか保育園	☎045(820)5588
ＹＭＣＡ東かながわ保育園	☎045(440)3763
ＹＭＣＡたかつ保育園	☎044(281)7833
金沢八景ＹＭＣＡ保育園	☎045(353)5130
ＹＭＣＡオベリン保育園	☎042(707)9974
富　士　山ＹＭＣＡ	☎0544(54)1151
鶴見中央ＹＭＣＡ	☎045(508)7800
ＹＭＣＡライフサポートセンター鶴見	☎045(506)0131
ＹＭＣＡライフサポートセンター関内	☎045(680)6680
本　部　事　務　局	☎045(662)3721

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日　時　3月16日(金)午前10時～正午
会　場　鎌倉YMCA　201教室
テーマ　A Malawians culture shock experience in Japan and Traditional wedding in Malawi
講　師　Yami Isaac Chilimaさん
参加費　会員1,100円、一般1,400円
申込み　鎌倉YMCA　☎0467(24)7859
○来日して4年を迎え、現在は横浜国立大学で経済を学ぶYamiさんより、日本で感じたことについてお話しいただきます。

■外遊びの良さを伝えよう！～自然の中にはワクワクがいっぱい！～

日　時　3月23日(金)
午後2時30分～4時
会　場　金沢区役所5階健診室B
講　師　西野博之さん
（川崎市子ども夢パーク所長）
内　容　外遊びを体験することのメリットをお話しいただきます。
対　象　公園ボランティアに興味のある方
参加費　無料
申込み　金沢区地域子育て支援拠点とことこ
☎045(780)3205

キリスト教理解

■聖書を読んでみよう会

日　時　3月20日(火)午後6時30分～8時
会　場　横浜中央YMCA 6階教室
テーマ　「ヨハネによる福音書を読む」
参加費　無料
問合せ　横浜中央YMCA☎045(307)7556

■聖書に聞く「創世記が語りかけるもの」

日　時　3月16日(金)午前11時～12時
会　場　横須賀YMCA
テーマ　「ヨセフ物語Ⅱ」
参加費　無料
問合せ　横須賀YMCA☎046(834)5811

イベント

■楽しいコンサート～歌・ソプラノ編～&「仙台すずめ踊り」

日　時　3月10日(土)午後1時～3時30分
会　場　横浜市踊場地区センター
内　容　東日本大震災復興支援のためのコンサート、仙台まつり宝山による「すずめ踊り」、宮古物産展ほか
参加費　1,000円（コンサートのみ）
問合せ　踊場地区センター☎045(866)0100

■「種まきうさぎフクシマに向き合う青春」上映会

日　時　3月10日(土)午後3時～5時30分
会　場　YMCA ACT
内　容　原発事故に若者が向き合うドキュメンタリー映画の上映会
参加費　大人1,500円、中高生1,000円、小学生以下500円
問合せ　YMCA ACT☎045(316)1881

■東日本大震災復興支援&国際・地域協力募金バザー

日　時　3月11日(日)
午前10時～午後2時
会　場　大和YMCA
内　容　被災地支援・それぞれの地域でいのちを守り、人を育てる活動支援のためのバザー
問合せ　大和YMCA☎046(264)3192

■輪 和 Waコンサート

日　時　3月17日(土)午後1時30分開演、午後1時開場
会　場　大和市保健福祉センターホール（小田急江ノ島線「鶴間駅」下車徒歩5分
出　演　西口則子さん（ソプラノ）、高島菜穂子さん(ピアノ)、長谷川愛子さん(箏/十七絃/三絃）瀧村ゆかりさん（箏/十七絃)、長谷川道将さん（尺八）
内　容　障がい児・者と楽しむコンサート
入場料　1,000円
主　催　大和YMCA「輪 和 Waコンサート」実行委員会
後　援　大和市、大和市教育委員会、大和市社会福祉協議会
申込み　大和YMCAライフサポートセンター
☎046(264)3192

カルチャー

＜なつかしい童謡や唱歌を歌います＞

■北YMCA　うたごえひろば

日　時　3月13日(火)午後12時40分～2時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　北YMCA 3階スタジオ
参加費　300円
申込み　北YMCA☎045(433)4321

■湘南とつかYMCA　うたごえひろば

日　時　3月20日(火)午後2時～4時
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　湘南とつかYMCA 1階ホール
参加費　300円
申込み　湘南とつかYMCA☎045(864)4768

■厚木YMCA　うたごえひろば

日　時　3月27日(火)午後2時～3時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　厚木YMCA
参加費　500円
申込み　厚木YMCA☎046(222)8619

■生麦地域ケアプラザ　うたごえひろば

日　時　3月14日(水)
午後1時30分～3時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　生麦地域ケアプラザ（横浜YMCA運営委託）2階多目的ホール
参加費　100円
申込み　生麦地域ケアプラザ☎045(510)3411

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日　時　3月20日(火)、30日(金)
午前10時30分～11時30分
会　場　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
対　象　横浜市子育てサポートシステムに入会を考えている方
問合せ　横浜市子育てサポートシステム中区支部事務局☎045(663)0676

学校説明会

■横浜YMCA学院専門学校作業療法科

日　時　3月10日(土)午前10時～正午
内　容　学校説明会
申込み　☎045(641)5785

■YMCA健康福祉専門学校

日　時　3月10日(土)午前9時30分～12時30分、*午後2時～5時
内　容　学校説明会 *個別相談会
申込み　☎046(223)1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日　時　3月18日(日)午前9時30分～11時30分
内　容　学校説明・見学会
申込み　☎045(864)4990

※各校とも入試を行っています。詳細は電話またはHPにて各校へお問い合わせください。

ボランティア情報

■子育て応援ボランティア説明会

日　時　3月28日(水)午後2時～3時
会　場　のんびりんこ研修室
問合せ　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ☎045(663)9715
○地域での子育てをお手伝いいただける方を募集しています。

2018年 維持会員（Yサポーター）受付中　お問い合わせ、お申込みは各YMCAへ

My Y Story 98

YMCAのかつどうでうまれたわたしの気持ち

文集「よこはま」の50点に選ばれた金沢八景ＹＭＣＡ学童クラブ　中村　心海（ここみ）

ありがとうの気持ちをつたえたい

わたしは4さいからＹＭＣＡで体そうをやっています。さいしょは「だいじょうぶかな」とふあんでした。でも自信をもってやってみました。そしてワッペンテストに合かくできました。合かくしたのは、やさしいリーダーのおかげです。わたしは、いつか、そのやさしいリーダーぜんいんにありがとうの気もちをつたえたいです。

家ぞくのおかげ　わたしがはじめてＹＭＣＡのキャンプに行ったのは1年生の夏でした。わたしは、少しどきどきしました。でも少しわくわくしていました。キャンプからもどった時は、楽しかった気もちしかのこっていませんでした。帰った時思いました。キャンプに行けたのは家ぞくのおかげって。

ねがいがとどくように　2016年に、わたしは学どうの友だちとぼ金をしました。それを、わたしは今でもおぼえています。わたしは、いつも「平和や友だち、そして、えがおがつながりますように」とねがっています。そのねがいがカンボジアやくまもとけんにとどくようにと思っています。まわりの人にいろいろおせわになっているから今どは、わたしがたすけたいです。

▲妹奈々海さんと文集「よこはま」の賞状を持つ心海さん(左)

保護者より　娘の心海は、小学1年で友だちがいる夏キャンプ、その後知り合いのいない春キャンプへ参加しました。リーダーから「いつもリーダーにくっついていました」と聞きました。2年生の夏キャンプでは「一人でいる知らないお友だちに積極的に声をかけていました」と言われ驚きました。3年生になる今年は、とうとう9日間のキャンプに参加できると楽しみにしています。

年長の頃からリーダーに日々の気持ちを手紙でも伝えているようです。返事が期待できない人になぜ何回も手紙を渡すか娘に聞くと「返事が欲しくて手紙を書いているんじゃないよ。手紙を受け取った時のその人の笑顔がみたいから」という返事に驚いて言葉もでませんでした。熊本地震支援のおもちゃ作りや募金活動をする彼女には、受け取った方の未来の笑顔が見えているのだと思います。

▲熊本地震緊急支援募金をよびかける(左から2人目)

▶デスクペン　東日本大震災から7年。「3.11をわすれない…つながる」の取り組みを継続して各YMCAにて開催いたします。ぜひ、ご参加ください。（直）